

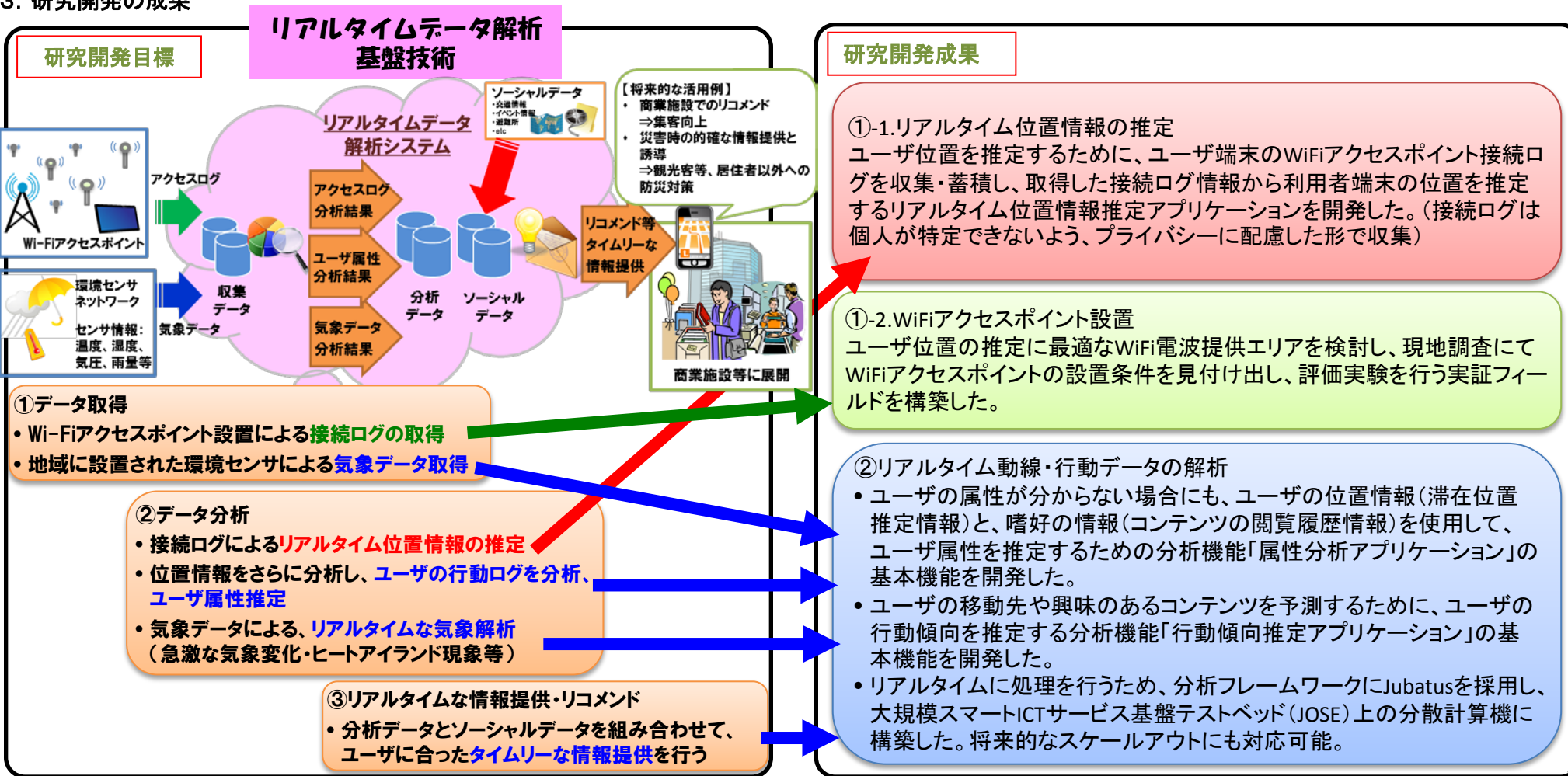
1. 実施機関・研究開発期間・研究開発予算

- ◆実施機関 エヌ・ティ・ティ・アドバンステクノロジー株式会社
- ◆研究開発期間 平成26年度から平成27年度(2年間)
- ◆研究開発予算 総額 40百万円(平成26年度 20百万円)

2. 研究開発の目標

人の動線・行動を解析し、必要とする情報を必要な人にタイムリーに提供することを目的に、特に従来技術では難しかったリアルタイムによる動線・行動のデータ解析技術の研究開発、ならびに気象環境の変化によって生じる人の行動の変化を解析する技術の研究開発を行う。

3. 研究開発の成果



4. これまで得られた成果(特許出願や論文発表等)

	国内出願	外国出願	研究論文	その他研究発表	プレスリリース 報道	展示会	標準化提案
気象データ・地域ソーシャルデータを活用したリアルタイムデータ解析技術の研究開発	0 (0)	0 (0)	0 (0)	1 (1)	1 (1)	0 (0)	0 (0)

※成果数は累計件数、()内は当該年度の件数です。

(1) 新世代ネットワーク推進フォーラム(主催:NICT 研究開発戦略ワーキンググループ)

研究開発戦略WG 第12回 2014年11月25日(火) NICT麹町会議室

講演題目:「気象データを用いたリアルタイムデータ分析技術活用事例」

NICTが主催する新世代ネットワーク推進フォーラム研究開発戦略ワーキンググループにおいて、基盤テストベッド(JOSE)の利用した実証実験として、「気象データを用いたリアルタイムデータ分析技術活用事例」について発表し、新世代ネットワークの在り方の観点から、ワーキングメンバとディスカッションを行った。

(2) プレスリリース発表

タイトル:「気象データ・地域ソーシャルデータを活用したリアルタイムデータ解析技術の開発 ～人の動線・行動の変化を解析し、タイムリーな情報提供が可能に～」

「気象データ・地域ソーシャルデータを活用したリアルタイムデータ解析技術」の開発実績、研究概要、今後の展開についてプレスリリースを行った。

5. 今後の研究開発計画

課題1 リアルタイムデータ解析基盤技術の開発

昨年度検討した人の属性と行動パターンの違いや季節や気象条件の違いによる行動の変化に着目した、人の動線・行動をリアルタイムに解析する為のアプリケーションの開発を行う。行動分析処理時間の目標時間を1秒以下とし、課題2の実証実験にて本アプリケーションの検証を行う。

課題2 リアルタイム行動分析結果を用いたソーシャルデータ活用の実証

実証実験の場所である広島市観光施設(安佐動物公園)などに設置された環境センサのデータをソーシャルデータの例として活用し、ソーシャルデータ活用の実証実験を実施する。実証実験の規模としては夏と秋の2回以上の実施。実証実験全体として数週間程度の期間行い、計数百グループ以上のデータを収集し、課題1で開発したアプリケーションの検証を実施する。